飛行経路の見直しなどで発着容量を拡大し日本全国と世界を結ぶネットワークを強化

東京国際空港（羽田空港）

羽田空港の概況
- 種別　国管理空港
- 運用時間　24時間
- 利用時間　24時間
- 滑走路　4本
- 旅客ターミナル　3カ所（国内2、国際1）

訪日外国人旅行者の増加を受け期待される空港の機能強化

都心から近く、24時間運用であることから、海外の主要都市と東京を結ぶ直行便の需要に対応した国際空港としての機能強化が期待されている羽田空港は、豊富な国内線ネットワークと連携することで「日本全国と世界をつなぐ」という役割も担っています。

訪日外国人旅行者数2020年4000万人という目標が観光ビジョンで掲げられる中、羽田空港の国際線旅客数は平成22年10月の国際線定期便の就航開始から年々増え続けています。さらに、他国や航空会社から就航したいというリクエストも多く、現在、羽田空港はフル稼働している状況です。

このニーズに応え、わが国の国際競争力を高めるためにも、羽田空港の国際線増便が欠かせません。48都市を結ぶ国内線ネットワークと連携することで、海外・国内の交流が活性化され、地方への波及効果も期待されます。

しかし、新しい滑走路を造ったとしても、東京湾上空は大変混雑しているため、発着容量をほとんど増やすことができません。そこで、既存の滑走路の使い方や飛行経路を見直すことによって発着容量を増やす機能強化方策が検討されています。

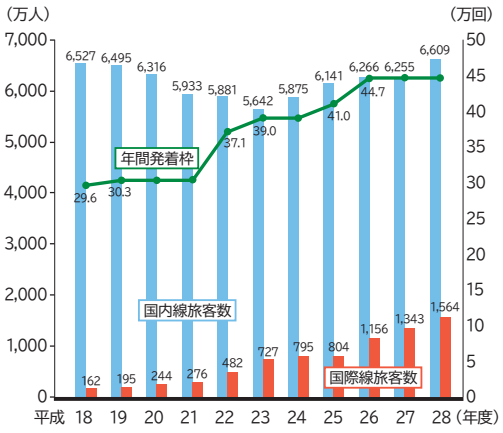
飛行経路の見直しなどで2020年には深夜・早朝時間帯以外の国際線の発着容量が約1.7倍に

平成26年7月に首都圏空港機能強化技術検討小委員会により取りまとめられた、「首都圏空港機能強化の技術的な選択肢」において、羽田空港については滑走路処理能力の再検証や滑走路運用・飛行経路の見直しにより、現在年間約45万回の発着容量を年間約4万回拡大できることが分かりました。これにより、昼間の国際線の便数が1日あたり約80便から約130便へと50便ほど増やせることとなります（深夜・早朝も含めると110便から160便）。

年間約4万回拡大に向けた方法の一つとして、発着需要の多い時間帯に限り、飛行経路を見直す方策が検討されています。飛行経路は風向きに応じて変わりますが、北風の場合においては荒川上空を飛行する出発経路を、南風の場合においては空港北側の陸域からの到着経路や川崎方面への出発経路をそれぞれ新飛行経路として設定することで、国際線増便を実現することができます。

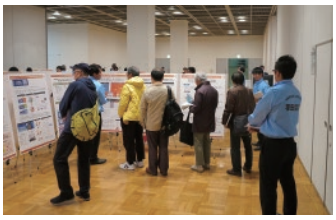
国土交通省では平成28年に、この増便が日本全国に与える経済波及効果などについて、約400億円の総事業費に対して、年間約6500億円もの経済波及効果があり、約530億円の税収が増加し、そして約5万人の雇用が増加すると計算しています。

羽田空港の旅客数・発着容量の推移



丁寧な情報提供に向けて住民説明会を実施

羽田空港の機能強化を実現するためには、



オープンハウス型
住民説明会の様子

できる限り多くの方々のご理解をいただくことが重要です。そのため、これまで東京・神奈川・埼玉の計66会場でオープンハウス型※住民説明会を実施し、機能強化の必要性や実現方法、平成28年7月に策定した「環境影響等に配慮した方策」の進捗状況などに加え、騒音や落下物への対策、新飛行経路に関する情報を説明するなど、丁寧な情報提供に取り組んできました。

このうち騒音対策については、「公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律」（騒防法）による教育施設などに対する騒音防止工事の助成基準を新たに見直し、従来の学校や病院などの施設に加え、家庭的保育事業を行う施設などについても助成の対象とする予定です。併せて、航空機の騒音を常時モニタリングする騒音測定局の増設なども行う予定です。

また、落下物対策については、落下物防止対策基準の策定や駐機中の機体チェックを羽田空港で特に強化して行うなどの総合的な対策が検討されています。

⬇落下物対策については7ページ「総論」参照

施設整備を通じて より便利で快適な空港へ

年々増加する羽田空港の国際線旅客数は、昨年約1700万人に達し、さらなる国際線旅客数の増加に対応する玄関口としてのターミナル機能を拡張する必要が生じています。このため、現在の国際線ターミナルを拡充するとともに、既存施設の有効活用という観点から、現在国内線専用である第2ターミナルの南側を増改築し、国際線対応施設（CIQ施設、免税店、チェックインカウンター、手荷物受取場など）を設け、これに伴う見合いの国内線対応施設を第2ターミナルの北側に増設する整備計画を、国土交通省、CIQ官庁、ターミナル運営会社などが協力しながら進めています。

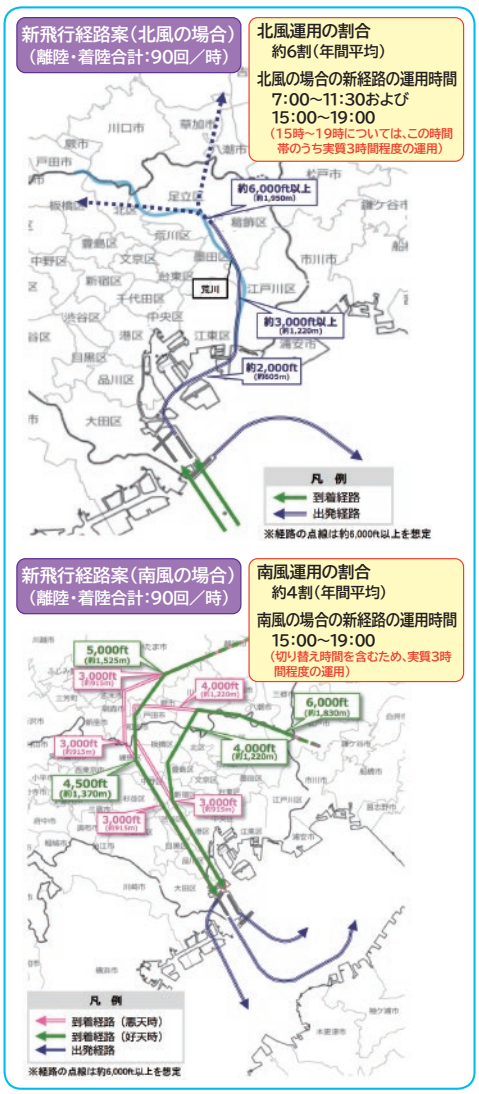
また、国際線旅客数の増加への対応にあたり、既に高い評価を受けているバリアフリー対応を含めたユニバーサルデザインのさらなる推進や、国際線から国内線へのスムーズな乗り継ぎ、訪日外国人旅行者への〝おもてなし〟の演出など、快適性・利便性を高めるための取り組みを進めるとともに、ロボット・ICT技術の利活用や、ボディスキャナーなどの最新保安検査機および入国審査における顔認証ゲートの運用開始など、最先端技術の導入も積極的に進めています。

このような空港ターミナルの拡充とあわせて、エアポートホテルや産業交流施設、羽田空港と先端産業が集積する川崎側を結ぶ連絡道路の建設など、多くのプロジェクトが計画されており、利便性のさらなる向上が期待できます。

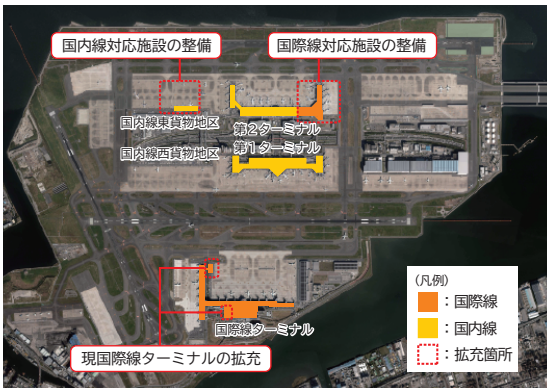
国土交通省としては、飛行経路の見直しなどによる機能強化に取り組むとともに、周辺プロジェクトと連携してその効果を高めていきます。

今後もさらに関係自治体と連携して、オープンハウス型住民説明会の利点を生かした双方向の対話を行いながら、ホームページやメディアを活用した広報などで引き続き情報提供を行い、機能強化についてご理解いただけるよう丁寧な情報提供に取り組んでいきます。

滑走路運用・飛行経路の見直し案



羽田空港のターミナルビルの拡充箇所



第2ターミナル南側の増改築工事の様子

※ 説明パネルなどの展示と併せ、担当者が参加者の意見などに対して適切に説明をさせていただくとともに、意見などを伺う形式